１学年通信

むらさき集う

平成２５年１２月　６日発行

発行責任者：結城克明

★ことば・言葉★

世の中では今年１年の出来事を振り返るということで、２０１３年の総括が各団体において行われています。今週の月曜日に、今年の「流行語大賞」が発表され、「倍返し」をはじめ４語が大賞を受賞しました。「倍返し」ですが、ドラマでは「やられたらやり返す。倍返しだ！」と理不尽な状況に主人公が吐き捨てる決め台詞が見ている私たちにスカッとする爽快感をもたらしてくれました。時代劇以外ではあまりない、久々にぞくぞくっとくる名台詞だったと思います。ただ、「倍返し」は使ったら最後、確実にその後の対人関係をずたずたにする、日常では使えないあくまでもドラマの世界のことばだなというのが率直な印象です。

「魔法のことば」・・・流行り廃りに耐え、流行語から派生し、いつの間にか日常生活の中に定着することば。

もともとの使い方は、違ったものだったのかも知れませんが「空気をよむ」も「魔法のことば」のひとつでしょう。

英語の授業で一人ひとりを指名して、答えさせる活動をすると、ごく普通に応答すればよいのですが、周りから「空気よめよ～！」などと難題を押しつけられるあまり、答えに窮してしまう生徒がいます。その場の状況や雰囲気を察知する能力はぜひとも身につけて欲しいのですが、ここで用いられる「空気をよむ」という行為は、「多分ここにいる皆が、ほぼ全員がそう望んでいるに違いないから、皆の総意をくみ取って発言するんだぞ！」とでも言っているようで、何か得体の知れない強制力を感じます。だからというわけでもないのでしょうが、思わず突拍子もないことを発言して、逆に周りから失笑をかうことがあります。

私たちのコミュニケーションは相互に行われて然るべきものであり、コミュニケーションを図ろうとするときに、もしくはその前に、無言の圧力（：「空気をよめ！」）がかかっては誰と意志疎通を図ろうとするかが曖昧になり、コミュニケーションそのものが停滞してしまいます。本来、「空気をよめ！」や「ＫＹ」などという表現を用いずに、発言がその状況に合わない時には、面と向かって「あなたの考えはわたしの考えと違います」「あなたの考え方は、よくありません」「この場でその発言はおかしいと思います」など、具体的な言葉で伝えたいものです。

気軽で、それを使っただけで何か新しい文化や時代を感じさせるために、「流行語」や「魔法のことば」はすぐに私たちの日常生活に入ってきます。言葉自体、発せられると同時にひとり歩きをはじめます。ですから、他人に不快感を与えたり、不安な気持ちにさせたり、不愉快な思いをさせるような言葉は不用意に使うべきではなく、まずは私たち大人が伝えるべき言葉を正しく用いるなど、言葉の環境を整えていく必要があるのかも知れません。

２７年度修学旅行

２７年度修学旅行実施に向けて旅行会社数社からのヒアリングを実施しています。昨日お渡しした学年懇談会要項に概要を掲載しましたが、「夢のようなわくわく感が最終日まで持続し、充実した学びの場としての修学旅行」を具現化するため綿密に打ち合わせをし、業者の選定を行います。

来週の予定

１２／　９（月）	普通授業５校時　部休日
１０（火）	B案６校時 **※学年集金1，８００円～１３日**　第３回英検申込みしめきり ６校時総合学習の時間に「教育活動の反省」と「学習アンケート」を行います。
１１（水）	普通授業６校時
１２（木）	普通授業６校時　※スクールカウンセラー来校日です。
１３（金）	普通授業６校時 ６校時総合学習の時間に学年集会を行います。 ※アンサンブルコンテスト県南支部大会　須賀川文化センター １年生２名参加　１４日（土）１年生６名参加

※誌面の都合上、先週予告いたしました「おとなの時間」は先日行いました「生活アンケート」の考察と併せて次回掲載いたします。